

# 心豊かな世代が育つ

## 童話の里づくり 397

### ―シリーズ― あなたの人権・わたしの人権

#### 「平和のバトン」

小田小学校六年

筒井 朱璃

「平和のバトンをつないで。もう二度と、戦争が起こらない未来、差別がない未来をつくってほしい。」  
被爆体験者の八木さんは、こうおっしゃっていました。

私たちは、長崎修学旅行の被爆体験者講話でこの話を聞きました。

傷に群がるうじ虫の話、食べ物がないこと等想像もつかないようなことばかりでした。

八木さんは、一九四五年に長崎の原爆で被爆しました。当時六歳でした。

「あと、六日早く戦争が終わってれば、長崎でこんなに多くの人が死ぬことはなかったかもしれない。」ともおっしゃっていました。

たった一瞬で約七万四千人の命が亡くなるなんて、戦争は人の生きる権利を無視する最も恐ろしいことだと思

ました。

しかし、最近のニュースを見ていると、悲しいことがたくさんあります。私は、今の世界も人の命を軽く考えていることが多いのではないかと思えます。

大阪で起きた地震で、私たちと同じ小学生がへいの下敷きになりました。命を大事に思う気持ちを強く持っていたら、あんな危ないへいは作らなかったはずなのだと思うと残念です。

新幹線や交番で起きた殺人事件も人の命をなんとも思っていないひどい行動です。

亡くなった人やその家族の気持ちを考えるところまでたまりません。

また、LGBTの本を読んで、自分の性について悩む人がおり、世の中に公表できない人たちがいることを知りました。

やっぱり世の中に差別があるからだと思います。私は、いろんな人がい

てもいいと思います。一人ひとり、違っていてもいいと思うからです。

何のために生まれて何のために生きているのかを考えたら、自分が楽しんで学んだりするためだと私は思えます。

今、私の学校では運動会へ向けての取り組みが始まりました。

その中で、私は赤組の団長になりいろんなことに気が付きました。

特に思ったのは注意の仕方でした。気になることがあると、小さなことでも少し強い口調で言ってしまうことがあったからです。

他にもみんなをまとめる上で少しイライラすることがあって、他の人に八つ当たりしてしまったこともありま

す。  
私は言う側だからいいけど、言われる側だと、少しいやな気持ちになると思えます。

言われた人は「こんなにがんばっているのに」と思ったり、怖いと感じて言い出せなかったりした人もいたかもしれないですね。

私のしていることは、本当のことを言えない雰囲気を作った人たちと同じなのかもしれません。

もう少し優しく言ったり、人ががんばっていることを見つけたりすることに気をつけたいです。また、深呼吸をして気持ちを落ち着けたいです。

「平和のバトンをつないで。」八木さんが望んだ未来をつくって行くには、私自身まだまだだと思います。

もうすぐ八木さんのように戦争を体験し、次の世代の人に伝えていた人もいなくなります。

だから、バトンをつないで、いつまでも戦争が起こらない人権を大切にしたい未来をつくって多くの人になれるようがんばりたいです。

この人権作文について、意見や感想、激励など、お寄せください。

また、みなさんの投稿もお待ちしております。

わたしたちをとりまく様々な不合理や差別性について気づいたことや感じたことを一、二〇〇字程度にまとめて、住所、氏名、連絡先電話番号を記入して（匿名も可）、玖珠町教育委員会社会教育課「あなたの人権・わたしの人権」までお届ください。

